

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月15日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	1号館
所在地	〒300-1214 茨城県牛久市女化町253-2		
自己評価作成日	平成24年4月5日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年6月14日	評価確定日	平成24年10月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員はご利用者の意欲や出来ることを見極め、食事づくりでは野菜の皮むきや切ること、ちぎること、盛り付けなど役割りを分担し全員が参加出来るようにしたり、裁縫、洗濯物たたみ、掃除、買い物など家庭の日常の活動を職員と一緒に出来るよう働きかけ、支援しています。</p> <p>季節の行事や慣わし（初詣、節分、雛祭り、花見、夏祭り、十五夜、お彼岸、餅つきなど）、果物狩りなどを行って季節感を取り入れた生活を心掛けています。</p> <p>地区の体操教室やお祭りなどにも出かけたり、パピーウォーカーの方に毎月1回犬を連れてきていただいでご利用者が触れ合ったり、幼稚園の園児さんとの交流など地域の方との関わりを進めています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は自己評価を作成するにあたって評価機関の自己評価用紙を全職員に配布し、介護現場の声を吸い上げて作成するなど、現場の声を重視しながら事業所の運営や利用者の支援に取り組んでいる。</p> <p>職員同士の連携が密であり、職員と利用者や利用者同士の仲も親密で、利用者は日々和やかで快適に生活をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を玄関先に掲げ、日頃から意識して取り組めるよう進めている。 会議ではそれらに添ったケアが出来ているか確認し合い、また、実践している。	全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、利用者が大きな模造紙に書いて玄関に掲示している。 職員はユニット会議で理念にそった実践ができているかを確認し合い、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店舗にご利用者と一緒に買い物に出かけたり、自治会に入会し区報のやりとりや区の活動（かっぱ体操、お祭りなど）に招待を受け参加したりしている。	自治会に加入し、利用者は職員と一緒に地域の区民会館で定期的に行われている「かっぱ体操」や地域の祭りに参加している。 利用者は毎週近くの商店で買い物をし、店員や買い物客と顔馴染みになっているほか、散歩時には近隣住民と挨拶を交わすなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受入れ、地区行事の参加、講演などを通して、認知症の方に対する理解を深めていただけるよう進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事などの活動状況、避難訓練や予防接種などの実施状況、介護事故についてなどの報告を行い、ご意見を頂きケアに活かしている。 地域の催し物の情報を頂き、招待を受けたり、参加したりしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族等の代表や市職員、区長、民生委員、老人会会長、事業所職員で開催している。 会議では利用者の入退去状況や行事、日常の活動状況を報告している。 参加者からは議題について質問や意見が出され、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法の改正時期などには、職員体制の相談をしたり、処遇困難ケースの相談を行ったりしている。運営推進会議での報告や介護相談員の受入れなどを通して、日頃のケアの様子を伝えている。	毎月介護相談員を受け入れているほか、運営推進会議に市職員の参加を得ており、事業所のサービスや運営状況を伝えたり、困難事例を相談して助言を得るなど、連携を密に取り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束廃止に関するポスターを掲げたり、契約時に説明したりして、ご家族にもその大切さの理解を深めていただけるようにしている。検討会議等で身体拘束をしないで済むケアの方法を話し合い実践している。日中は玄関やベランダの鍵を開錠し、ご利用者の自由な出入りが出来るようにしている。	玄関に高齢者虐待ゼロ宣言のポスターを掲示し、全職員が身体拘束の弊害を正しく理解している。月1回のケース検討会議で身体拘束をしないケアを確認し合っているが、転倒防止のためベッドに柵をせざるを得ない場合は、家族等に説明して同意を得ながら最少限の柵を施している。また、身体拘束期間については短期間を目指して職員で話し合い、利用者の状況を見ながら身体拘束解除に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員室内に虐待に関するポスターを掲げ常に意識できるよう努めている。ご利用者の気持ちを考えて行うケアに取り組んでおり、それが虐待防止となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業を利用しているご利用者がおり、その目的や大切さを学んでいる。必要と思われるご利用者には、ご家族に制度の案内を出したり、関係機関との連携を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもって重要事項の説明やサービス内容の説明をし、同意を得た上で契約を行っている。また、いつでも閲覧できる場所に提示していると共に、変更があった際にはその都度、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況を報告しながらご意見を伺っている。 運営推進会議へ参加していただいたり、介護相談員を受入れたりして、ご利用者やご家族が外部者にも意見を表せる機会を設けている。	家族等の面会時に意見や希望を聴くとともに、月1回介護相談員を受け入れ、利用者や家族等が意見等を出せる機会を設けている。 事業所の行事の準備に家族等の協力を得ており、職員は家族等と一緒に花見の弁当を作りながら会話を交わす中で意見を聴き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務上の課題について話し合ったり、会議や申し送りの場でも検討を重ねたりしている。	毎月ユニット毎にケース検討会議を開催したり、全職員で会議を開催して意見を出し合い、運営に反映させている。 自己評価制度を取り入れ、管理者は年3回実施する職員の自己評価時に職員面談を行い、意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じた報奨制度、人事考課制度、上司と部下との2者面談、サークル活動の支援など、職員の福利厚生を整えられるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度、職場内研修の実施、外部研修参加の奨励と補助など、職員を育てる環境を整えられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や市内の事業所職員が集まる協議会などで情報の交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には、利用者も緊張や不安が強い為、日々の生活態度や会話の中から困っていることや、不安に思っていることは無いか汲み取り、情報を集め、職員同士で共有し、徐々に関係が深められるよう慎重に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は自己紹介を行い、質問には正確に答えられるよう努めている。ご家族の要望や困っていることにも、その真意を考えながら傾聴し、不安を取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントから必要なケアについて話し合い準備を整えている。ご家族に記入していただくセンター方式シートや入居後の生活状態により必要なケアを見極めケアを深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事」「できない事」を見極め把握する事に努め。それに合わせて、共に食事を作ったり、掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、教えていただいたりしながら共に生活している同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者と家族の橋渡しが出来るよう努めている。毎月の便りや状態の変化が見られる都度、状況を伝えている。ご家族には受診の付き添いをお願いしたり、行事などにお誘いしている。電話でお話して頂き、利用者に精神的に安定した生活が送れるよう協力を頂くこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙(年賀状など)による交流の支援や、馴染みの場所(自宅、お墓、商店など)への希望も可能な範囲で支援している。 ご家族、兄弟、友人が来訪時には、居心地良く感じられるように、お茶を出したり環境作りに努めている。	職員は電話を取り次いだり手紙や年賀状、礼状が出せるよう支援し、馴染みの人との関係が継続できるように努めている。 家族等や友人の来訪時には、居室や共用空間など希望の場所で居心地よく過ごせるよう声かけや見守りをしている。 利用者が墓参りに出かけられるよう家族等の協力を得ているほか、身寄りのない利用者には職員が付き添い、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、座席の調整や、食事作りなどの作業や会話を通して関係を深められるよう支援している。言葉のやり取りや雰囲気などに気を配り、声かけを行ったり介入したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移り住むご利用者の状況、習慣、好みやこれまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、必要や求めに応じて、相談や支援をするようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴などの情報や本人に直接聞いたり、生活の様子から思いや希望を感じ取り、出来る限り実現できるよう努めている。	職員は家族等から利用者の生活歴を聞いたたり、日々利用者と一緒に過ごす中で会話や行動から思いの把握に努めている。 思いの把握が困難な利用者の場合は、話しかけたり表情から思いを汲み取り、意向にそったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時情報やご家族に書いていただくセンター方式シートからの情報と、何より普段の会話の中で、様々な材料(ニュース、行事など)を用いて、小さい頃の事や仕事の事などそれまでに経験されてきたことを聞きだし、その方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に家事などの活動をする中で、生活パターンや心身状態、有する能力が把握できる。24時間の様子の記録や申し送り等で職員の誰もが情報を共有できる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われるケース検討の他、日々変わる状況に合わせて複数人で対応を検討し、現状に即したケアが出来るように努めている。	介護計画は全職員でケース検討会議を開催し、利用者一人ひとりの課題やケアの方法を話し合うとともに、家族等の希望を取り入れ6ヶ月毎に作成して家族等に説明している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の活動の状況や健康の状況がすぐに分かるような記録様式を用いている。その日気づいた事を出来るだけ生き生きと伝わるように書き表すよう努めている。業務の始めには全員が目を通すことで、情報を共有し、日々のケアや計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のそのときの都合により、受診の送迎、付き添いの支援、一時帰宅やお墓参りの送迎、付き添いの支援など出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人会やボランティアなどの方々の力をお借りしながら、楽しみがある生活を送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族による受診の援助が困難な場合には、同意を得た上で当方の協力医療機関に主治医の変更をいただいている。その都度、必要な情報を伝え、主治医と連携して適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者18名中16名が協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、受診は職員が付き添っている。 協力医療機関以外のかかりつけ医への受診は、家族等が対応している。 受診結果は家族等と連絡を取り合い、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームから毎日、看護師が巡回に来て、健康面での相談ができる。また、毎週1回、訪問看護ステーションの看護師により健康チェックが行われている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、身体状況や精神状況も含め近況の状況を詳細に伝え、退院時には通院の要否、療養上の注意点などの情報を受けている。 入院中も面会や電話などで情報の交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には「重度化した場合における対応に係る指針」を基に提供可能なサービスを説明している。 重度化した場合や緊急時の対応の意向を伺い職員、ご家族と方針を共有し、主治医とも連携できるように取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」やマニュアルを作成し、契約時に事業所でできる支援を家族等に説明している。 重度化や看取りの対応に関する職員研修を実施するとともに看取りに向けて現場の体制づくりを進めている段階だが、職員は「看取りをすることは明確になっていない」との認識で、事業所の指針を十分理解するまでには至っていない。	全職員が事業所の看取りの指針を十分理解できるように共有認識を図るとともに、看取りケアに向けて医師や職員などの関係者で話し合い、早期に体制がつけられることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の観察のポイントや対応方法、心配蘇生法、AEDの使用方法など研修を行い、適切に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報装置やスプリンクラーなどインフラを整備している。 年2回消防署職員の立会いの下、昼夜想定での避難訓練を実施し、通報や避難の方法、併設施設職員との連携などを確認している。	消防署立会いのもと年2回昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。 訓練終了後消防署の指導を受けたり、明確になった課題を話し合って記録し、次の訓練に活かしている。 近所に民家が少ないため、避難訓練に近隣住民の参加は得られていないが、敷地内に同一法人の特別養護老人ホームのほか6つの介護事業所が隣接しており、備蓄も含め7事業所で災害時の協力体制を築いている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁や食べこぼし等、他利用者に気付かれないよう対応したり、居室へ入る際は、声をかけてから入るなど、プライバシーを損ねないよう配慮している。一人一人の個性を尊重し、名前を「さん」付けで呼んだり、言葉遣いに気をつけており、何かしてもらった時には「ありがとう」と必ず声をかけている。	職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重し、名前の呼び方を「さん」付けにしたり、食材の買い出しや配膳、下膳など利用者が手伝ってくれることには「ありがとう」の感謝の言葉かけに努め、人格を尊重したケアに取り組んでいる。 個人情報のファイルは、事務所のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立作りや、余暇活動などその時その時において希望が出るように支援している。言葉が出ない方にも、声をかけ、表情や仕種などから意思を読み取れるよう努めている。ご利用者が話している時は、話をおらずに最後まで聞いて、本当に思っていることが何なのかを聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動や休養のパターンが一人一人出来ているので、それに合わせている。 外出や買い物などの時間は特に決めていない。習字等の趣味活動についても、希望があった時には可能な限りその意向を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の髪形を美容室に伝えたり、化粧品を購入したりと意思を尊重している。 なじみの服をいつも着ていたいという方もいるが、外出時にはよそ行きの服を着られるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	切る、ほぐす、炒める、洗う、配膳するなどその方の出来ることを細かく把握し、ご利用者の好みとも合わせて役割を分担し、力を発揮して頂いている。皆で作って食べることを楽しめるよう、声かけしながら支援している。	利用者は職員と一緒に食材の買い出しから下ごしらえ、配膳や下膳までの役割を担い、喜々として取り組んでいる。 利用者の苦手な献立には別の食材で代替えている。 誕生日は刺身の出前を取ったり外食をするなど、変化を付けている。 職員は食事介助をするとともに利用者と一緒に食事をし、和やかに会話をしながら食事が楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や肉・魚、乳製品などバランスよい献立になるよう努力している。1人1人のいつもの摂取量を把握し、変化があれば注意してみている。年1回の健康診断で栄養状態を確認している。尿量やトイレに立つ回数に気を配り、水分の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の手入れなど、1人1人の出来ること、出来無いを把握し、状態に応じて職員が支援し、毎食後の口腔ケアを勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや失禁の状況を把握し、それに合わせて、なるべくトイレで排泄できるよう、自立を保てるよう、声掛けや、トイレ誘導、オムツ類の調整を行っている。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は早めの声かけやトイレ誘導でおむつを使用せず、トイレで排泄できるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、野菜類やきのこ類、ヨーグルトなどをふんだんに使い、便秘にならないよう配慮している。下剤やセンナ茶を服用しているご利用者には、排便の状況によって下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴時間帯は夕方と決まっているが、希望や体調に合わせて他の時間にも入れるよう可能な限り対応している。ゆず湯や菖蒲湯など実施したり、入浴の方法(湯に浸かる時間や湯温など)も一人一人に合わせるなど、ゆったりと入浴を楽しめるよう配慮している。	毎日の入浴は夕方に支援しているが、利用者の希望にそっていつでも入浴ができよう支援している。 季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり、入浴を拒む利用者には「薬を塗るから風呂場に来てください」などとさりげなく声かけをし、入浴ができるよう誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後一眠りしたい方や、昼寝をした方、まったく休まない方など、一人一人生活リズムが違うので、ホールに姿が見えないときなどはそっと居室を覗き、寝ていたらゆっくり休んでいただいている。運動や散歩、日光浴等を通して、夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を把握している。処方が変わった際には、申し送り書等で確認し、体調や精神状態など変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや出来る事を活かして、掃除や食事作りなどの役割をこなしていただいている。一人一人が得意としている、歌や習字、大正琴などを披露する機会を作り、本人の自信につながるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日はドライブや散歩に出かけ外の空気に触れられる機会を作れるよう支援している。お菓子などの個別の買い物希望にも対応している。ご家族の協力を得て、毎週自宅に外泊できるよう支援しているご利用者もいる。お弁当を持って外出したりもしている。	散歩を日課に取り入れ、天気が良い日は外気に触れられるよう支援するとともに、脚力が弱っている利用者や体重が増えている利用者には、下肢筋力低下予防のため、決まった時間帯の外出を継続して支援している。季節に合わせて花見や苺狩り、ぶどう狩りのほかドライブに出かけ、利用者が気分転換や季節を感じられるよう外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理する場合、自分でお金を持つ安心感を考慮し、紛失する可能性があることをご家族にご了承いただきながら、それを支援している。施設側で管理している方に対しても、本人に自由に使えるお金があることを説明し、買い物時は何か欲しい物はないか伺ったり、支払いを本人にさせていただくなどの援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人を思って訴えがある場合には、電話を勧めたり、取り次いだりしている。年賀状や手紙などのときは、文面を一緒に考えたり、宛名書きを代行したりなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適所にソファやイスを配置して、好みのところでくつろげるよう配慮している。季節ごとの花や飾り付けを行い、季節感を感じていただけるよう配慮している。日常や行事の時の写真を掲示して、楽しみの一つとなっている。	居間には季節に合わせたタペストリーや利用者を書いた習字、絵画の作品を飾っているほか、利用者が寛げるようソファやテーブルを設置している。利用者はテーブルを囲んで歌を歌ったりおしゃべりをして思い思いに過ごしている。職員は彩光や温度に気を配り、季節の花を飾って家庭的な雰囲気づくりに努め、利用者が穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席を決め一人一人の居場所を確保している。 テレビ前や離れにソファを配置して、時に一人でくつろいだり、気の合う者同士くつろいだり出来るようにしている。安全面にも配慮して配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や机、テレビ、仏壇、写真など一人一人違った雰囲気のある居室となっている。	全居室に利用者が持ち込んだ暖簾がかけられている。 居室に仏壇のほかタンスや机、椅子など使い慣れた物品を配置したり、壁に家族の写真を飾るなど、利用者が安心して過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーでも通れるようスペースを確保したり、適所に手すりを配置するなどして安全な環境作りに配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家

作成日 平成24年11月7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		全職員が事業所の看取りの指針を十分に理解できるように共有認識を図るとともに、看取りケアにむけて医師や職員などの関係者で話し合い、早期に体制がつけられる事を期待する。	1、全職員が看取りケアへ取組む意識を持つ 2、職員全員でターミナルケアの体制を整えていく 3、自信を持って、ターミナルケアを実施できるようになる。	・介護施設の専門性としてターミナルケアが求められていること、ターミナルケアの意義や虹の家としての理念などを、会議等で説明する。 ・ターミナルケア研究委員会を立ち上げる。	1、半年 2、1年 3、1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。